

11

保育協議会の取組み

東日本大震災に伴う保育協議会の復興支援活動は次のとおりです。

(1) 会員保育所被災状況調査

当協議会では、震災発生直後から現地調査などにより、沿岸地域に所在する会員施設の被災状況を確認していましたが、震災発生から約3カ月後の平成23年6月に県内の全会員施設を対象に被災状況調査を実施しました。

今回の災害により会員保育所は、11施設が全壊及び流失、3施設が半壊、71施設が一部損壊の被害を受けました。また、人的被害についても3名の職員と33名の園児が死亡又は行方不明という甚大な被害がもたらされました。今回の災害による園児への被害は、保護者に引き渡した後に起こっており、職員と一緒に避難した園児には被害がなかったことが分かっています。

●震災による被害

あり	119 施設
なし	155 施設
無回答	73 施設
計	347 施設

A 建物被害について ※非会員2か所含まず（全壊2）

流出又は全壊（浸水含む）	11 施設	津軽石保育所、田老保育所、越喜来保育所、高田保育所、今泉保育所、安渡保育所、小本保育園、鶴住居保育園、釜石保育園、わかき保育園、野田村保育所
半壊	3 施設	宮古保育園、竹駒保育園、山田町第一保育所
一部損壊	71 施設	二戸：2、久慈：2、岩手：3、盛岡：7、紫波：2、花巻：4、北上：3、遠野：3、胆江：6、一関：7、東磐井：11、宮古：7、釜石：5、気仙：9
なし	34 施設	

B 保育実施状況について

震災以前と同じ場所・建物で実施中	106 施設	
場所や建物を変えて代替施設などで実施中	12 施設	津軽石保育所、田老保育所、越喜来保育所、高田保育所、今泉保育所、安渡保育所、小本保育園、宮古保育園、鶴住居保育園、釜石保育園、わかき保育園、野田村保育所
休止中	1 施設	竹駒保育園

(2) 現地訪問及び被災保育所へ保育士派遣

① 現地訪問

平成23年4月16日に全国保育協議会の小川益丸会長(当時)、菊池繁信副会長(当時)が釜石市内の保育園を訪問し、施設が流失した跡地等を視察しました。現地訪問後の情報交換では、保育協議会の田口和子会長(当時)が全壊、流失した保育所への支援を要請しました。

また、平成23年8月4日には、全国保育士会の尾形由美子副会長、鈴木美岐子副会長が陸前高田市の竹駒保育園を訪問しています。

1 全国保育協議会被災地保育所等の訪問

期 日：平成23年4月16日

訪問先：鶴住居保育園(釜石市)、やはば保育園(矢巾町)

訪問者：全国保育協議会会長 小川益丸氏(当時)、副会長 菊池繁信氏(当時)

対 応：田口和子会長(当時)、高橋カヨ元会長

2 保育士会被災地保育所への訪問

期 日：平成23年8月4日

訪問先：竹駒保育園(陸前高田市)

訪問者：全国保育士会 副会長 尾形由美子氏、副会長 鈴木美岐子氏

対 応：熊谷美枝子副会長

C 職員について

区分	人数	6/1 在職者
死亡	2 名	
行方不明	1 名	
負傷	0 名	0 名
同居の配偶者・親・子を亡くした職員	45 名	36 名

D 車両について

職員の自家用車損失数		182 台
内 訳	軽自動車	89 台
	普通車	93 台
	その他	0 台

E 園児について

区 分	人数	6/1 在園児
死 亡	20 名	
行方不明	13 名	
負 傷	0 名	0 名
同居の親を亡くした園児	49 名	30 名

F 園児の住居について

	人 数	6/1 在園児
全壊・流失	857 名	577 名
半 壊	154 名	127 名

G 職員の住居について

	世帯主	
	人数	6/1 在職者
全壊・流出	24 名	22 名
半 壊	8 名	7 名
	世帯主以外	
	人数	6/1 在職者
全壊・流出	199 名	157 名
半 壊	41 名	34 名
	計	
	人数	6/1 在職者
全壊・流出	223 名	179 名
半 壊	49 名	41 名

② 保育士派遣

震災発生直後の平成23年3月27日から3日間、当協議会では、大槌町の堤乳幼児保育園から要請を受け、同園に対し、川目保育園、なかの保育園、かがの保育園の保育士計3名を派遣しました。震災発生直後の混乱期にも関わらず、現地の職員に代わり保育や救援物資の仕分け、がれき撤去等にご尽力頂きました。

また、平成23年8月29日から3日間、当協議会では日本ユニセフ協会から要請を受け、やはば保育園の栄

養士1名、不動幼稚園の栄養士1名を大槌幼稚園に派遣しました。

① 堤乳幼児保育園へのボランティア派遣

派遣期間：平成23年3月27日～29日

派遣職員：川目保育園 高嶋 純 氏

なかの保育園 和川 剛 氏

かがの保育園 箱崎 慎太郎 氏

② 大槌保育園へのボランティア派遣

派遣期間：平成23年8月29日～31日

派遣職員：やはば保育園 栄養士 吉田 桂子氏

不動保育園 保育士 沼下 美穂氏

(3) 義援金、図書等の配分

全国保育三団体(全国保育協議会、日本保育協会、日本私立保育園連盟)をはじめ、県内外から多くの義援金が寄せられました。頂いた義援金については、被災と受けた保育所等に配分を行いました。

また、義援金以外にも、児童図書をはじめ多くの物品も寄贈頂きました。

① 義援金の配分

① 保育三団体被災地支援募金(第1期)及び株式会社チャイルド社からの義援金受入及び配分(平成23年7月配分)

ア 義援金受入

22,910,000 円

内訳) 全国保育3団体20,000,000 円、(株)チャイルド社2,910,000 円

イ 義援金配分

22,905,000 円

(県内15か所の全壊・流失保育所に対し1か所につき1,527,000 円)

② 保育三団体被災地支援募金(第3期)の受入及び配分(平成24年4月配分)

ア 義援金受入

8,440,000 円

イ 義援金配分

8,440,000 円

(県内4か所の半壊保育所に対し1か所につき1,235,000 円、7か所の全壊・流失保育所に対し1か所につき500,000 円)

③ 保育三団体被災地支援募金(第4期)の受入及び配分(平成24年9月配分)

ア 義援金受入

1,323,000 円

イ 義援金配分
1,323,300 円
(県内 11 か所の全壊・流出及び半壊保育所に対し 1 か所につき 120,300 円)

4 東日本大震災被災地保育士会支援募金(第 1 期)及び横浜市私立保育園園長会からの義援金受入及び配分(平成 24 年 7 月配分)

ア 義援金受入
5,562,196 円
内訳) 東日本大震災被災地保育士会支援募金 4,762,196 円、横浜私立保育園園長会 800,000 円
イ 義援金配分
5,400,000 円
(県内 10 ブロックの保育協議会に対し 1 ブロックにつき 100,000 円、4 ブロック協議会に対し 1 ブロックにつき 425,000 円を 2 カ年で配分)

5 東日本大震災被災地保育士会支援募金(第 2 期)の受入れ及び活用

ア 義援金受入
1,415,379 円
イ 活用方法
平成 25 年度に本県にて開催される第 47 回全国保育士会研究大会開催経費として活用

6 岩手県内会員保育所等からの義援金受入及び配分(平成 23 年 9 月配分)

ア 義援金受入
3,812,291 円
内訳) 県内会員保育所等 3,562,291 円、群馬県保育協議会 200,000 円、全国保育協議会 50,000 円
イ 義援金配分額
4,005,000 円
(会員保育所被災状況調査を基に、267 名の保育所職員・32 名の園児に義援金を配分)

●職員への見舞金
3,685,000 円(死亡 2 名、行方不明 1 名、家族死亡 42 名、住宅全壊 180 名、住宅半壊 42 名)

	区 分	対象者	見舞金額	総 額
職員	死亡	2 名	30,000 円	60,000 円
	行方不明	1 名	30,000 円	30,000 円
	負傷	0 名	10,000 円	0 円
	家族死亡	42 名	10,000 円	420,000 円
職員住居	全壊／世帯主	11 名	20,000 円	220,000 円
	全壊／世帯主以外	169 名	15,000 円	2,535,000 円
	半壊／世帯主	1 名	10,000 円	10,000 円
	半壊／世帯主以外	41 名	10,000 円	410,000 円

●園児への見舞金
320,000 円(家族死亡 32 名)

	区 分	対象者	見舞金額	総 額
園児	家族死亡	32 名	10,000 円	320,000 円

7 全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会等からの義援金の配分

ア 義援金受入 1,212,698 円
内訳) 全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会 1,000,000 円
福岡県大川市保育所連盟 152,740 円、北海道保育協議会 21,265 円
東京都社会福祉協議会 38,693 円
イ 義援金配分 1,212,698 円
内訳) 久慈ブロック保育協議会 303,173 円、宮古・釜石・気仙ブロック保育協議会に対し各 303,175 円

② 寄贈物品の配分

1 ホクレン農業協同組合連合会からの図書寄贈
県内 12 か所の全壊・流失保育所に総額 2,123,041 円相当の絵本・DVD を寄贈

ア 贈呈式
日 時:平成 23 年 12 月 19 日
場 所:盛岡市「ふれあいランド岩手」
出席者:寄贈者
団体名:ホクレン農業協同組合連合会
同連合資材事業本部 参事 横山 雅彦氏
同連合資材事業本部 部長 阿部 健三氏
同連合資材事業本部 課長 萩原 直樹氏
同連合資材事業本部 柴田 恭兵氏
受領者
岩手県社会福祉協議会
古内 保之 専務理事兼事務局長
岩手県社会福祉協議会・保育協議会
田口 和子 会長

2 (株)全音楽譜出版社からの絵本寄贈
会員保育所に対し楽器絵本 690 個を寄贈

3 ゴールドマン・サックス証券からの寄付金によるパワーイレ(可搬型リチウムイオン蓄電池)の購入及び被災保育所への寄贈
県内 15 か所の被災保育所に総額 22,680,000 円相当の蓄電池を寄贈

4 東京都社会福祉協議会保育部会からの折り紙寄贈
会員保育所に対し折り紙 684 冊を寄贈

5 青森ロータリークラブ及び京都南ロータリークラブか

らの児童図書寄贈

県内11市町村に所在する保育所33か所及び児童館10か所の計43か所に2,000,000円相当の児童図書・DVDを寄贈

ア 贈呈式

日 時:平成24年9月28日

場 所:盛岡市「ふれあいランド岩手」

出席者:寄贈者

団体名:

青森ロータリークラブ及び京都南ロータリークラブ

青森ロータリークラブ 会長 柳谷 順三氏

京都南ロータリークラブ 会長 津田 純一氏

他

青森ロータリークラブ及び京都南ロータリークラブ会員
受領者

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会

後藤 賢弘 事務局次長

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会・保育協議会

藤本 達也 会長

やはば保育園

栄養士 吉田 桂子



「ボランティア…私に何ができるのだろう…少しでも支えになれば…」という思いで、3日間のボランティア派遣に参加しました。

大槌保育園は津波による浸水被害を受けたため、別の場所に2階建ての仮設園舎を建て、6月から保育を再開したそうです。園舎に近づくにつれて聞こえてきた子どもたちの元気な声。私が普段接している子どもたちと同じだ、とほっとしたのを覚えています。

3日間、主に0～2歳児の保育補助と、山積みになっていた支援物資の整理を行いました。環境整備に手が回らないほど、子どもの人数に対して職員が少なく、保育をするだけで手一杯という状態でした。しかし大変な状況であっても、職員間での連携を大切にし、お互い支え合って保育をしている姿には、頭が上がりませんでした。

やっと1日の流れが把握でき、これから…というところで最終日となってしまい残念でしたが、今後もこのような支援をする機会があるなら、できる限り参加したいと思います。今回は貴重な経験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。

不動保育園

保育士 沼下 美穂



私は3日間大槌保育園で未満児の保育補助ボランティアとして派遣され、8:30～17:30まで未満児を中心に保育してきました。

保育園はプレハブの2階建ての造りになっており、未満児が2階を使用し、0、1、2歳児が同じフロアで保育をしていました。プレハブということで階段も急であり、トイレが1階にあるために2歳児は階段を上り下りしなければならず不便さを感じました。

また、十分な環境が整ってないため、食事の際はイスではなく床に座っており、正しい姿勢で食事ができず介助も大変であると感じました。イスに座って食事をする大切さを改めて感じたように思います。

そして、職員もぎりぎりの人数で保育しているため、保育するだけで精一杯であり、支援物資の整理や保育室の環境の整理等に手が回らないように感じました。私もできる範囲でお手伝いしてきましたが、おもちゃの整理(同じ物に分けて入れる等)や絵本の整理(シールで色分け等)など、まだまだ手が行き届かない部分が沢山あるように感じます。今後も支援が必要であると共に、必要な物(イスやテーブル、おもちゃを入れる箱等)も沢山あると感じました。

子どもたちや職員の方々も笑顔が見られ、気持ちの面でも少しずつ良い方向へと向かっているように感じるため、今後も以前の保育ができるようになるまで岩手からも協力していければと思いました。また、色々な人たちに今の現状を知ってもらいたいと感じました。

もうすぐ震災から2年が経ちますが精神的な面でのケアも引き続き必要だと思うので、今回経験してきたことを忘れずにできることを考えながらこれからも支援していけたらと思います。